

◆ 博物館だより

◇2016（平成28）年度関西大学博物館 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	27	24	28	2	4	0	25	11	18	18	16	14	187
入館者数	2,156	2,569	2,075	126	3,236	0	1,130	654	566	178	386	360	13,436

◇2017（平成29）年度春季企画展として「河内国府遺跡発掘100周年—近畿地方先史時代考古学のはじまり—」を4月1日から5月21日まで開催し、3,107名の方にご来場いただきました。展示資料は、当館所蔵の登録有形文化財「本山コレクション」に含まれる大阪府藤井寺市所在の国府遺跡出土資料を中心に、京都大学総合博物館と道明寺天満宮、大阪府教育委員会からも関連資料を借用しました。関連催事として、5月13日に当館学芸員山口卓也による講演会が開催され、83名の参加を得ました。

◇本年度テーマ展として、4月1日から5月21日まで「関西大学と村野藤吾」を春季企画展と同時開催しました。本展では、2016年度に京都工芸繊維大学の学生が作成した1969（昭和44）年頃の「関西大学千里山キャンパス」建築模型や写真パネルを展示しました。4月15日には京都工芸繊維大学の笠原一人先生を講師にお迎えし、講演会を開催しました。

◇6月6日から6月30日まで夏季企画展「炭鉱の記憶と関西—三池炭鉱閉山20年展—」を開催しました。この展示は、関西大学経済・政治研究所「大阪の社会労働運動と政治経済研究班」（2013-2016年度）の研究発表の場として位置づけられます。エル・おおさかギャラリーでの展示の後に、関西大学博物館でも巡回展として開催されました。期間中は1,251名の方にご来場いただき、6月11日には児島惟謙館においてシンポジウム「炭鉱の記憶と関西をつなぐもの—多様な記憶を時空に刻む—」も開催されました。

◇本年度夏季テーマ展として、7月17日から9月30日まで「ノーマンD. クック教授、林武文教授のふしぎなサイエンスアート」展を開催しました。本テーマ展は、本学総合情報学部のノーマンD. クック教授と林武文教授の、長年にわたる錯視に関する研究成果をサイエンスアートという形で紹介・展示し、期間中には4,304名の方にご覧いただきました。

◇博物館キッズミュージアムを7月26日と8月2日・3日に実施しました。7月26日には万葉書作家の鈴木葩光先生指導のもと、50名の子供たちが書道の楽しさを学びました。8月2日・3日には今年も紀伊國屋書店、丹波市、大阪府立弥生文化博物館など学外からも協力を得て、子供たちに様々なプログラムを体験してもらいました。小学生を中心に3日間で参加者は2,330名でした。



◇本年度上半期に、博物館夏季企画展「炭鉱の記憶と関西」にご助力いただいた鶴飼雅則氏からSPレコード4枚の寄贈がありました。このSPレコードは、昭和30年頃の炭鉱の労働歌として広く歌い継がれた代表的なものです。今後、博物館で充分活用していきたいと考えています。

．．． 編集後記 ．．．

表紙は、本館所蔵の青花白磁花鳥文大皿です。明代後期の景德鎮で焼かれたもので、その意匠から芙蓉手と呼ばれる資料です。八つに区画割りされた周縁部それぞれに稜花形文が描かれ、その中にチューリップを便化した花文を配しています。皿の中央には蓮池水禽文がみられます。このような意匠は日本の有田でも盛んに模倣され、ヨーロッパに大量に輸出されました。

今年度、関西大学博物館において高度専門職業人としての学芸員を養成することを目的として、学芸アシスタント制度がスタートしました。2017年度は、文学研究科博士課程後期課程2年の渡邊貴亮さんが学芸アシスタントとして博物館の学芸業務に従事しています。

